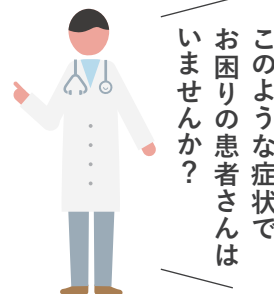


必要な方へ、必要なリハビリを。 リハビリ目的の短期入院

武蔵ヶ丘病院では、以下のような症状でお困りの方の
“リハビリを目的とする短期入院”のお受入れを行っています。

- 関節の痛みが急に強くなり、日常生活に支障がでてきた。
- 脳卒中の後遺症で手足に麻痺があり、身の回りのことができづらくなってきた。
- 外出の頻度が減って全身の体力が落ち、歩くときにふらつくようになってきた。



このような症状で
お困りの患者さんは
いませんか？

3名のリハビリテーション科専門医と約100名のスタッフが
365日の集中的なリハビリを提供しております。

当院には3名のリハビリテーション科専門医が在籍しています。リハビリテーション科専門医は、急性期から生活期まで、様々な障害を持つ患者さんの機能回復や社会復帰を医学的に支援するスペシャリストです。医学的管理を行いつつ、多職種連携のリーダーとなり、治療方針の決定やシステム作りを行います。



せんじゅ ゆうき リハビリテーション科部長
地域連携室長
MCRC副センター長

認定資格

- ・医学博士
- ・日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医・指導医
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
- ・心臓リハビリテーション指導士



おやま ゆうじろう
小山 雄二郎

認定資格

- ・日本整形外科学会専門医・指導医
- ・日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医
- ・日本ペインクリニック学会専門医
- ・日本リハビリテーション学会専門医



たなか しんいちろう 医療法人田中会副理事長
田中 慎一郎 介護老人保健施設 おおつかの郷 施設長
MCRCセンター長

認定資格

- ・日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医
- ・障がい者スポーツドクター



スタッフ構成

医師	3名	言語聴覚士	13名
理学療法士	64名	アシスタント	3名
作業療法士	23名		(令和7年4月現在)

リハビリに集中できる快適な環境をご用意しております。



リハビリテーション室

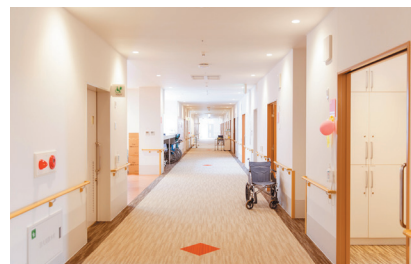
※写真は2階

2階655.3m²、3階80m²、野外訓練フロア270m²
計1005.3m²と、広くて快適な空間です。



ADL室

台所、和室、浴槽、トイレ、玄関などの設備があり、
退院後の生活を想定した訓練が出来ます。



病棟廊下

車いす使用者同士でも、余裕をもってすれ違える通
路幅を確保しております。

セラピストが患者さんの目標達成に向けて、段階を踏みながらリハビリを進めていきます。

リハビリの流れ 次のような症例に対し、いくつかの療法を組み合わせながらリハビリを進めていきます。

■ 脳卒中後遺症の方の場合

(発症から180日以上経過)



最近、歩くのが不安定な気がする。食事の時のムセも気になる。

目標 身の回りのことを安全に行えるようになる。

	入院初期	入院中期	退院前
PT	基本動作のチェック (起立、歩行など)	歩行を中心とした基本動作訓練 例：バランスマット上での歩行訓練、ウェルウォークを用いた歩行訓練	
OT	日常生活動作のチェック (食事、入浴、掃除など)	日常生活動作訓練 例：お盆を持ちながらの歩行訓練 (食事の準備を想定)、布団の上げ下ろしの練習など	
ST	飲み込みの機能のチェック	口の中のケア	飲み込みに必要な筋肉の筋力増強訓練 飲食・飲水の練習

リハビリの時間だけでなく、お部屋での自主トレーニングも積極的に実施いたします。

■ 廃用症候群の方の場合

(全身の体力低下)



ほとんど外出をしないせいか、体力や筋力が落ちた気がする。

目標 1人で買い物に行く。運動習慣を身につける。

	入院初期	入院中期	退院前
PT	例：磁気刺激やマシンを使用した筋力増強訓練	全身の体力向上を目的とした基本動作訓練 例：立ち上がり訓練、歩行訓練など	買い物 退院時指導
OT	詳細な身体機能のチェック 筋肉量やバランス、筋力など	筋力増強訓練	栄養管理
		外出を見据えた日常生活動作訓練 例：段差の昇降、不整地の歩行など	屋外歩行訓練 外出訓練

再び全身の体力低下が起こらないよう、自宅で気軽に行える運動指導も行います。

最新のリハビリ機器を活用し、 疾病や障がいに応じた最適なりハビリを提供しております。



ウェルウォーク WW-1000

脳卒中片麻痺患者用の歩行訓練ロボット。最新テクノロジーを搭載し、最短で最高の訓練効果を発揮。「第8回ロボット大賞」を受賞。



三次元動作解析装置 キネマトレーサー

脳卒中患者の特徴的な歩き方を正確に分析する計測機器。身体運動中の関節角度や重心の動き、運動速度などを詳細に分析できる。



medi VR KAGURA カグラ

仮想現実を活用し、ターゲットとなる場所に手を伸ばす動作などを繰り返すことで、姿勢バランスや認知機能の向上が期待できる機器。



磁気刺激装置 パスリーダー

磁器を利用し、筋肉の神経線維を刺激する機器。効率の良く筋力増強効果を発揮。電気刺激と比べ、痛みや不快感が少ないことが特徴。

外来受診から退院まで流れ

入院前	リハビリテーション科を受診 ※予約制 ・千手医師 (金曜午前) ・田中医師 (水曜午前)
入院初期	<ul style="list-style-type: none"> 入院時面談、カンファレンス リハビリ 家屋訪問
入院中期	<ul style="list-style-type: none"> 中間面談、カンファレンス リハビリ 野外、家屋訪問
退院前	退院前カンファレンス



リハビリが必要な方のご相談・ご紹介をお待ちしております。
お問い合わせは、地域連携室までご連絡をお願いいたします。

